

<p>《校訓と学校教育目標》</p> <p>校訓 正しく 強く 美しく</p> <p>学校教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○物事を正しく判断し 進んで学習する生徒 ○粘り強い気力を持ち 体力の向上に取り組む生徒 ○奉仕の心と感謝の気持ちを持ち、礼儀正しく思いやりのある生徒 <p>目指す学校像 「生徒一人ひとりの夢や希望をはぐくみ、生徒・保護者・地域・教職員の誇りとなる学校」</p> <p>目指す生徒像「当たり前前（の）のことが当たり前前（の）にできる生徒」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進んで学習する生徒 ○体力の向上に取り組む生徒 ○礼儀正しく思いやりのある生徒 	<p>《学力向上にかかわる学校経営方針》</p> <p>学習指導の充実・学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態、学力調査等のきめ細かな分析により、改善への方策を明確にする。 ○言語活動の充実を図り体験的な学習を取り入れた授業展開をすべての教科、領域で積極的に実施するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行う。また、人権教育の視点をすべての教科・領域で取り入れた授業改善を行う。 ○学習のねらいと振り返りの場面の設定を明確にし、基礎的、基本的な学習の定着と活用力の育成に努める。 ○少人数指導やチームティーチングを効果的に活用し、個に応じた指導の充実を図る。 ○ICT機器を積極的に活用し、生徒の主体的な授業参加により、情報活用能力、プレゼンテーション能力の向上を図る。 ○朝読書や読み聞かせ、図書館教育を充実させ、生徒の読書力を伸ばし、生き方を考え、生徒の教養を高める。 <p>特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人一人に応じた、きめ細かな指導を進め、保護者の理解と協力が得られる信頼関係を築く。 ○通常学級における支援を必要とする特別な支援を必要とする生徒への指導体制の整備を進める。 ○授業のユニバーサルデザイン化を進め、誰にとってもわかりやすい授業づくりに努める。 ○県立特別支援学校、特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習の充実を図る。
--	---

生活指導からの視点	道徳教育からの視点	小中連携からの視点
<ul style="list-style-type: none"> ○組織的な生徒指導体制を確立し、全教職員が一体となって計画的に取り組む。 ○基本的な生活習慣を確立し「時を守り 場を清め 礼を正す」を教師が手本として示し、指導を徹底する。 ○生徒理解に努め、問題行動の早期発見・対応を図るとともに、いじめや暴力行為をしない・許さない環境づくりを全校体制で取り組む。 ○教育相談室・和光市教育支援センター・行政機関等と連携し、不登校傾向や悩みを抱えている生徒のきめ細やかな個別指導を徹底するとともに、小学校との連携強化による中1ギャップ解消に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自らの生き方を真剣に考え、温かい心情と責任感を持ち、豊かな心の育成に努める。 ○思いやりや感謝の気持ちを持ち、責任感をもって協力し合う態度を育成する。 ○他者の生命を尊重し、弱いものをいたわり、美しいものに感動する心を育てる。 ○いじめを許さない態度、いじめを未然に防いだり、自分たちで解決できる力を育成する。 ○ボランティア活動、福祉体験活動などの社会体験活動を通して、道徳的実践力や社会性を高める。 ○道徳の教科化に向け、全体計画、年間計画、評価計画を作成し「考え、議論する」道徳の授業への転換を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校区内広沢小学校・本町小学校・第三小学校との児童・生徒の交流事業を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校へ授業補助ボランティア ・小学校へ運動会ボランティア ○小中学校合同の研修会実施 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での授業の実施（英語・数学等） ・学習、生活指導、教育課程の情報交換を通して、適切な教科指導や生徒指導の連携を図る。

総合的な学習の時間からの視点	本校における「確かな学力」のとらえ方	特別活動からの視点
<ul style="list-style-type: none"> ○「生きる力」を育むため、各学年で適切な学習課題を設定する。 ○体験学習を中心とした活動の中で課題を発見し、情報収集したものを整理分析して、自分の考えなどをまとめて表現する力を育成する。 ○地域住民との交流活動を通して、社会性やコミュニケーション能力の育成を図る。 ○自らの未来を切り拓くために、的確な勤労観・就職観や望ましい進路決定能力を育成して、社会的、職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現させるためのキャリア教育を推進する。 	<p>本校では学習指導要領に示された基礎・基本を重視し、次の力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の学習を深め、それを生かす応用力 ○自ら学ぶ意欲と自ら考える力、思考力・判断力・表現力 ○他との対話的な活動の中で課題を発見し、解決する能力 <p>《本校における「確かな学力」の育成の重点》</p> <p>「確かな学力」を身に付けさせるために、基礎・基本の確実な定着を図る。そのために次のような実践を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく、意欲を引き出し、伸ばす授業 ・学び方を学び、自らの課題を解決できる授業 ・生徒一人一人の理解度に応じた、きめ細やかな授業 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級の一員としての自己存在感を実感し、学級が心の居場所となるよう主体的に取り組む姿勢を育てる。 ○よりよい学校生活づくりのために生徒の自治的活動が効果的に展開される生徒会活動の運営を進める。 ○生徒による自主的・実践的な学校行事の工夫をする。 ○将来を見据え、自己の生き方を考える進路指導、生徒自ら目的を持った進路選択、自己実現への過程を大事にするきめ細かな指導・支援に取り組む。



教科からの視点

《授業における指導の工夫》	《校内授業研究・研修の工夫》	《課外学習における指導の工夫》
<p>(1) 基礎的・基本的な知識・技能などを確実に習得させる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の流れを提示し、めあてや本時の課題を理解させる。 ○単元ごとに小テストを実施し、理解の定着を図る。 ○生徒が主体的に取り組む授業づくりを心がける。 ○ICTを活用し、デジタル教科書等を活用した授業に取り組む。 ○どの教科でも、通常学級における支援教育のあり方について研修をさらに深め実践を積む。 ○授業を活性化させる教材・教具の工夫をする。 <p>(2) 思考力・判断力・表現力を向上させる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」の実践を通して、学習意欲を持ち、自主的・主体的に学習できる生徒を育成する。 ○授業に少人数による学習を取り入れ、生徒が考えを伝え合い、協力して学び合う機会を多くする。 ○一問一答の質問だけでなく、理由や考えの根拠を明らかにして答えを述べるような発問の工夫をする。 ○発表ボードを班活動で活用し、それぞれの班同士が意見を交換して、より考えが深まるような授業づくりに努める。 	<p>○教科毎の研究授業や研究協議を年間計画に位置づけ、3年間を見通した授業づくりに取り組む。</p> <p>○学校区内の広沢小と連携し、学習・生活指導・教育課程等の情報交換を行い、小中のつながる指導に取り組む。</p> <p>○通常学級における特別支援教育を生かした授業づくりの研修をさらに深め、研究と実践的な取組を行う。</p> <p>○人権教育の視点をすべての教科領域で取り入れた授業改善を行う。</p> <p>《その他、学校独自の工夫》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全校一斉の朝の読書活動に取り組んでいる。より効果的にするためブックトークや読み聞かせを行っている。 ○行事と共に成長する生徒をめざした学校行事づくりに取り組み、仲間と共に達成感が共有でき自尊心が高まる場を提供する。 ○県立和光南特別支援学校との交流会を実施し、障害のある人への理解を深め、手助けできる心をはぐくむ。 	<p>(1) 基礎的・基本的な知識・技能などを確実に習得させる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○定期テスト1週間前に国語・数学・英語等の教科で希望者対象に補習学習を実施する。 ○夏休みの期間中に、基礎学力の定着を図るため、各学年が複数教科の補習授業を行っている。希望者を対象とするが、面談時に個別に参加を勧める場合もある。 <p>(2) 思考力・判断力・表現力を向上させる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○長期休業中に全学年を対象に、読書感想文やテーマを設定した作文を課題として与えた取組を行う。 ○英語はテーマに基づいて英語で自由作文・社会は自分の決めた時代を中心とした歴史新聞・理科は自ら設定したテーマで自由研究等、技術・家庭科は、発明創意工夫展に出品する作品を製作し、発表会を設ける。